



JAC北九だより NO.40

(平成20年第2号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部
Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行: 社団法人日本山岳会北九州支部
事務局: 北九州市門司区新原町12-27
関口興洋方
TEL・FAX 自宅 093-382-6436
携帯 090-8919-6776
発行人: 大庭常生
編集人: 関口興洋・伊藤久次郎

2008年度 全国支部懇談会 北九州開催の概要決まる

北九州支部の主管で、この秋催される今年度の全国支部懇談会の、記念行事の主な内容が決まりました。その柱としては、松本清張生誕100周年記念の特別講演を計画。記念登山は、北九州の最高峰、福智山(901m)と国定公園カルスト地形の平尾台～貫山(700m)。

このほか、海底トンネルを歩いて渡る、関門海峡の歴史探訪コースも用意しています。日程の主な内容は次のとおり。

と き 08年10月11日(土)～12日(日)

と ころ 「ホテルニュータガワ」 北九州市小倉北区古船場3-46

TEL: 093-521-7000

ね ら い 日本各地で活動している28支部や首都圏の会員が、毎年一回一堂に会して、活動経験の交流と会員相互の親睦をはかるため。

内 容 第1日目(10月11日、土)

(1) 全国支部懇談会全体会議(受付開始14:00、会議の開始15:00)

(2) 記念講演: 来年の松本 清張生誕100周年を機に、清張と山をめぐる講演
講師: 梅光学院大学 小林 慎也教授 (15:30～17:00)

(3) 懇親パーティ(18:00～20:00)

第2日目(10月12日、日) 記念登山

(A) 福智山(901m)～所要時間: 約7時間、小倉駅で解散(15:30頃)

(B) 平尾台～貫山(700m)～所要時間: 約7時間、小倉駅で解散(15:30頃)

(C) 関門の歴史探訪コース～所要時間: 約7時間(貸切バス利用)

下関市長府の城下町、功山寺(国宝)、赤間神宮(祭神: 安徳天皇)、火の山、壇ノ浦～和布刈(関門トンネル人道経由)、門司の風師山(楨有恒元会長の歌碑見学)、小倉駅で解散(16:00頃)

参加費用(概算) 約20,000円(懇親パーティ、宿泊、記念行事参加の場合)

08年度 北九州支部の第9回通常総会

今年の通常総会は、次のとおり開きます。

○ と き: 08年4月19日(土) 午後2時から(受付は午後1時30分から)

○ と ころ: ホテルニュータガワ(北九州市小倉北区古船場町3-46 TEL 093-521-7000)

総会終了後は、坊がつる讃歌の作詞者で知られる山口大名譽教授の松本恒夫先生(JAC福岡支部)の講演や懇親会を予定していますので、多数の参加を歓迎します。

会長、会員名簿発行を検討中と発言

支部事務局担当者会議の報告(08年2月)

事務局 関 口 興 洋

支部事務局担当者会議が08年2月16日(土)～17日(日)、本部で開催されましたので、主な内容を報告します。

2月16日(13:00～17:00)

1. 宮下会長の挨拶

- 会員名簿は、2003年に発行されて以来、中断されている。一部会員に反対もあるが、市町合併も一段落したので、発行すべく検討中である。
- 永年会員の年会費は免除されているが、永年会員数も増えるにつれ財政事情も苦しいので、永年会員に対して、一口5000円の寄付をお願いしたい。
- 日中韓三国の学生交流登山の推進(山2月号No.753で詳しく紹介されている)
- 公益法人化について、この夏までに方針を決めたい。

2. 神崎副会長の挨拶

- 北海道支部の鈴木事務局長が昨年11月、雪崩のため逝去されたことを悼み、黙祷。
- 年間行事計画の発表
(10月11日～12日、北九州支部主管の全国支部懇談会も含まれている)
- 従来、事務局担当者会議は支部長会議と同時に開催していたが、今回は時間を十分にとるため、単独で開催。
- 会員はどこかの支部に所属してもらいたい。
- 登山の普及につくしてもらいたい。

3. 宮崎常務理事より、本部・支部間の連絡は電子メールでお願いしたい。

4. 吉永常務理事より、公益法人制度改革について説明があり、衣替えしてもいろいろ、制約を受け、特にお金の使い方に厳しい注文がつくとのこと。例えば、年間予算1億円ならば、半分の5千万円は公益目的事業に使わなければならない。支部助成金(一人当たり2500円)は「公益目的事業推進助成金」という名目にして交付することが必要。

2年後に定款の変更、3～4年後に公益法人に移行を検討中。

5. 各支部より平成20年度の事業計画を発表。

- 北海道支部は現在、旧冬の雪崩遭難事故報告書を作成中で、4月の支部総会で発表予定。
今年は「鎮魂の年」として、会としての登山活動は一年間ひかえ、個人ベースの同好会活動にとどめる。
- 北九州支部よりは、10月の全国支部懇談会の内容の説明資料を配布、協力を要請。

2月17日(9:00～12:00)

1. 神崎副会長(支部担当)より、資料集が配布され、JACの現状と問題点・課題につき説明・報告が行われた。

○ 会員状況

2001年の5,948人が最高在籍会員数で、2002年から入会会員より退会会員(除籍者、物故者を含む)が上回る会員減少が続いている。各支部で会員増員、入会の奨励をお願いしたい。

○ 年齢別会員構成

2007年9月現在の平均年齢65歳(年齢計算対象人数5,538人)

10代1人、20代19人、30代119人、
40代327人、50代1,091人、60代2,128人、
70代1,528人、80代286人、90代35人、
100代4人

高齢化対策＝若年対策

○ 首都圏会員(2006年10月現在)

東京都1,283人、神奈川県511人、埼玉県286人、群馬県25人、栃木県46人、茨城県39人、千葉県248人(昨年3支部設立)

新公益法人化にそなえ首都圏の支部化をはかる。

新公益法人化までに全会員の支部在籍体制を整えたい。

○ 全国支部懇談会

昨年設立された3支部を除き、宮城、福島の2つの支部が開催すると持ち回りが一巡する。

これを機に、支部懇談会のあり方など見直し、時代にあったイベントとして次のステップを考えた上で、継続を検討したい。

2. 各支部からの要望事項で特に目立った点

新会員を勧誘する際のネックは入会金(20,000)が高い。10,000円で検討してもらいたい。

なお、岐阜支部は年齢別に入会金の助成を行っており注目された。

3. 宮下会長の締めの挨拶

- 東京は三支部に分けて立ち上げることを検討中
- 入会金は分納も可能、「試行錯誤」主義で臨みたい
- 会員名簿は出したい
- 晩餐会、非会員のカップル参加希望があれば相談を

以上



女性の圧倒的な参加で盛り上がった実技

園川さんを講師に、遭難対策講習会開く

(園川陽造さんの略歴と資格)

熊本県出身。1938年生まれ。11歳から登山を始める。昭和36年から福岡県山岳連盟 国体山岳競技担当理事・日本山岳会会員。平成元年第44回北海道はまなす国体 山岳競技R副主任審判員を務める。

現在、環境省公認 自然公園指導員。日本山岳協会公認 主任検定員及び中央審判員並びに自然保護指導員。日本体育協会公認 山岳上級コーチ及び山岳マスター指導員。

遭難対策講習会の報告

磯野文雄

2月17日(日)の午前10時から、皿倉山(北九州市八幡西区)の「ふれあいの家」で、個人による遭難対策、セルフレスキューなど、遭難した場合の救助技術の向上に取り組む」ことを目的として、支部会員の園川陽造さんを講師とした、講習会が行われました。

会員18人が参加、午前の部、午後の部にわかれた講習。午前の部では、登山における登山者の生理を中心に、止血法や発汗量と水分補給の関係などを学びました。午後の部では、ロープワークの基本的な結び方を基礎として実習、発展的にロープを利用した担架の製作や救助用のハーネスを実際に担ぐ演習など、実践的な講習となりました。

参加者は、メモをとりながら、あるいはロープワークに首をかしげながら、熱心にとりくみ



カラビナを使っでの救助方法



背負いバンドの使用

3月の由布岳の山岳救助訓練が、参加者不足で延期になりました。

ました。

この講習を通じて、遭難対策については、まず、当事者によるセルフレスキューが必要であること、続いて、組織としての遭難対策が必要なことを学びました。残念ながら、組織的な取り組みである



講習会に参加した皆さん

とても勉強になりました

坂本むつみ

小雪のちらつく中、山岳会に入って初めての講習会。はじめは緊張していましたが、園川講師のユーモアあふれるお話で、1年分位の大笑いをしながら楽しく講習を受けることが出来ました。知っているつもりだが、知らないことを改めて思い知らされました。50代の女性として耳の痛いお話もたくさんありました。昼食時には会の在り方、リーダーとしての在り方などについてのお話もあり、勉強になりました。

前々から、このような講習会があると良いね、とは仲間内で話してはいました。これを機に、年に何度か講習会をしていただけるとありがたいです。

単に、山に登るだけでなく、基礎から、それにまつわるいろいろなことを今からでも勉強していきたい。それに、もっともっと会員に参加していただきたい。

最後に、園川講師、企画した役員に感謝いたします。



ザイル担架(重そう!)

参加者(18人)

講師	園川 陽造	(5306)
推進委員	細川 功	(12364)
推進委員	大楠 益弘	(13465)
推進委員	磯野 文雄	(13533)

原 広美	(11990)	伊藤久次郎	(13499)
西村 信子	(13520)	舩木 隆	(13534)
横山 洋子	(13804)	高城 季美子	(14046)
丹下 治	(14264)	大木 康子	(北九266)
坂本むつみ	(北九357)	八木 国子	(北九359)
末次 幸子	(北九369)	坂本千佐子	(北九379)
森本 信	(北九389)	丹下香代子	(北九396)

(写真は伊藤Qのビデオから)

伯耆大山の雪山合宿

テント就寝中 警察より遭難連絡あり!?

No. 14476 武 永 計 介



大山元谷にて、(原 撮影)

10人で出発

北九州支部4度目の冬季大山は、参加者10人のテント合宿となった。

2月8日(金)福岡・小倉(23:25発)より松江行き高速夜行バスに乗り、一路大山をめざす。

2月9日(土)松江駅からJRで米子駅に向かい、そこからまたバスに乗り。車窓からは雪をまとった大山が前方に大きく横たわる。大山寺BSには8時30分到着。下車して見ると積雪は2メートル余りで、気温も低く、風も強い。ここで、先発の中村さんと合流し10人が揃う。早速、下山キャンプ場へ移動し、テント設営。

下山駐車場は雪で埋まっており、すでに10張り程テントが張られていたが、私たちは風向きを考慮、ラッセルにてキャンプ場まで降りてテントを設営。1時間程で雪を踏み固め、10人用、6人用の2張りを設営し、ラーメンで昼食後、登山準備。

元谷で雪上訓練

11時、雪上訓練のため元谷に向け出発する。大山寺からの山道は積

雪が多いが、トレースがあり、歩きやすい。大神山神社では、全員で安全祈願。下宝珠越入口からは、車道が完全に埋もれ、激しい風雪の中トラバース気味に進み、元谷に到着した。

元谷では、腰までの積雪の中、板倉さんの指導で、ラッセルと滑落停止訓練を行う。終日風が強く、視界が悪い。終了後、往路を辿り15時30分下山キャンプ場へ帰着。

就寝中警察の至急電話!

夕食は獅子鍋で、大鍋2杯作ったが、みんなビール片手に良く食べ、完食する。冬のテントは鍋がおいしく最高。お酒と会話が進むが、明朝に備え20時に就寝。

22時50分ハプニング発生! 警察より「大山にて遭難が発生した」と緊急連絡。情報提供を依頼される。

捜索隊として出発

2月10日(日)定刻の4時に起床。身支度を整え雑炊で朝食後、5時50分登山開始。夏山登山道にはトレースはあるが、昨夜の降雪で埋もれている箇所もある。私たちは今日一番乗りらしい。登山中も遭難捜索のため、しばしば警察から状況確

認の電話が入る。

遭難者発見!

9時に6合目避難小屋に到着。小休止しアイゼンを装着する。天候は雪、気温マイナス5度で風も強い。出発後、7合目を過ぎたところで、遭難者が自力下山して来るのとお出会う(西村信子隊員が発見!)。名前を確認し、後続の警察に伝える。「よかった。よかった」。

彼の話では、9合目でピバークしたが、携帯電話を車に忘れ、連絡が取れなかったとのこと。風雪により視界が悪く、目印の赤旗も良く見えず、トレースもはっきりしないが、ゆっくり進み、11時20分に大山山頂到着。ホワイトアウトで、山頂もはっきりしない。でも、全員で無事登頂できて良かった。山頂小屋のそばで、テルモスのお茶を飲み、行動食を食べてホットする。

元谷へ一気に滑り下りる

下山は、6合目までアイスバーンも無く快調で、40分で一気に下る。ここで、アイゼンを外し身軽になり、行者谷を元谷に向けて快調に下る。元谷には、昨日行った我々の訓練跡が見えて、なぜかなつかしい。

キャンプ場に14時20分帰着し、ビールで乾杯後、残り物を全部入れてウドンを作り、昼食とする。

食事後、テントを撤収しお風呂に入り、18時10分のバスで大山を後にする。

2月11日(月)定刻通り夜行高速バスは、小倉と福岡に到着し解散。おつかれさまでした。

〔参加者10人〕

CL板倉 健一	SL山田 武史
原 広美	室津 健次
伊藤久次郎	中村 昭彦
西村 信子	武永 計介
関口 興洋	大内喜代子

〔コースタイム〕

夏山登山口開始5:50→五合目8:30
→六合目避難小屋:→山頂11:20→
下山開始11:40→元谷堰堤13:20→
キャンプ場14:20

英彦山おでん登山

JAC・FPMC合同で新年を祝う

伊藤 久次郎

今年も、FPMC(福岡県警登山同好会)とJAC北九州支部とのおでん登山をしました。このおでん登山は、FPMCが毎年1月の成人式の祭日を選んで、たくさんのおでんを持って登り、英彦山の山頂で、温かいものを会員のみならず、ほかの登山者にもふるまって、新年初登りを祝っているもので、20年以上続いています。

今回は、JAC、FPMCあわせて35人が参加しました。毎年雪がある日が多かったのですが、今年は温暖化のせいでしょうか、雪はなく雨天でした。雨の中を登るのは、どうも気が向かない。また、土、日は、彦山駅前から予定していたバスが出ないとわかり、山頂登山はあきらめることにしました。そのため、せっかく仕入れたおで



彦山駅前の食堂で合同新年会

んをむだにしないように、雨天でも出来るよう、どこか雨がしのげるような場所がないかと検討しましたところ、昨年、私が山の版画展をした英彦山花駅の2階に立派な体育館があり、交渉し、借りられることになったわけです。昼食を兼ねておでんも全員で処分しました。そして午後は、FPMCの登山組6人(榊、西村、岩下、河島、

平野、二宮)とも落ち合って、彦山駅前の食堂で合同の新年会を開催し、JACとFPMCとの友好を深めました。

なお、今回雨天対策から、計画の一部を変更したことで、登山組の方にごめいわくをおかけしましたことをおわびいたします。

参加者(順不同)

JAC～原 広美、大楠益弘、板倉健一、関口興洋、高島拓生、山田武史、森本信子、末次幸子、藤田 傳、大木康子、横山洋子、高城季美子、坂本むつみ、坂本千佐子、牧 寛、西村俊二、西村信子、伊藤久次郎(FPMC)

FPMC～岩下昌彦、室津健次(JAC)、大石そなえ(同)、小林富雄(同)、榊 俊一(同)、中岡邦男(同)、西村一利(同)、平野一幸(同)、宮城尚志(同)、山口政男、山根芳明、大神文樹、志牟田浩之、松井元三、讃井啓介、河島さゆみ、二宮りえ、以上合計35人

◇◇◇ 報告・連絡など ◇◇◇

山岳遭難救助訓練延期の連絡

No.13465 大楠 益弘

3月15日(土)～16日(日)実施予定の訓練は、参加申込者が男性1人、女性6人と少数のため、中止し、夏季に延期します。園川主任講師をはじめ細川、磯野、板倉各氏には準備に奔走していただき、誠に申し訳なく、また残念に思います。

2月17日(日)の遭難対策講習会は、別紙に報告されていますが、盛況裡に終了しました。園川講師の、ときには父のように厳しく、ときには兄のように優しく、またときに落語家顔まけのオチには爆笑がわき、和気あいあいの雰囲気でした。



門司山歩会と九重交流登山

No.13465 大楠 益弘

門司大里南市民センター登山教室受講生で結成された門司山歩会は、活動を始めて一年が経ちました。

しかし、まだまだ、学んでもらう余地はあり、支部会員との交流登山を企画しました。

マイクロバスを使用しますので、人員に限りはありませんが、ぜひご参加下さい。

要 領

日 程 6月7日(土) 7:30～
 集合時間 門司駅前7:30～小倉駅北口8:00～10号線行橋周辺、適宜停車。
 行 程 門司～小倉～豊前おこしかけ～大曲、星生山登山口～星生山～肥前ガ城(または扇ガ鼻)～牧ノ戸～(途中入浴)～小倉～門司
 リーダー チーフリーダー 大楠益弘
 サブリーダー 未定
 申 込 み 大楠益弘あて(TEL090-3196-8939、FAX093-371-4933)
 申込締切 4月23日(水)

山のニュース

(最近の新聞記事などから抜粋)



83歳ヒマラヤ初泳ぎ29回目

松川町の冒険家、大沢茂男さん(83)は、今年で29回目となるヒマラヤの氷河湖での初泳ぎに成功した。

大沢さんが目指した氷河湖は、ネパールの標高5,250m付近にあるゴラクシェブ湖。12月13日に出国し、28日現地に入り、準備。元日の午前9時ごろ、氷を割った湖に入り、日の丸を掲げた。氷点下15度。暖冬の影響か、氷厚は例年になく薄く、約15センチだったという。

大沢さんは今回も自宅を手塩にかけて育てた桜の苗木をネパール山岳協会などに寄贈、30年来の交流があるシェルパ族の子どもたちに奨学金を送り、交流を深めてきた。(1月22日 東京新聞)

登山家の続さんスキーで南極点到達 日本人女性初

スキーで南極点を目指していた東京都町田市の続素美代(つづき・すみよ)さん(40)＝熊本県出身＝が1月24日南極点に到達した。支援者によると日本人女性の南極点到達は初めて。続さんは98年に日本人女性3人目となる世界最高峰エベレスト登頂に成功。04年にはスキーでグリーンランドを横断した。

カナダのガイド会社のスタッフや英国人ら男性3人とチームを組み、昨年11月28日に南緯約80度のハーキュリーズインレットを出発。極地の寒さと強風の中、1人がリタイアしたが、荷物を載せたそりを引き、57日目で南極点に着いた。

(1月24日 西日本新聞)

東海支部の石川富康会員(7191)が、 世界最高齢71歳のセブンサミッターを達成。

～最後の南極大陸登頂～

世界7大陸の最高峰登頂を目指してきた日本山岳会東海支部(愛知県山岳連盟会長)の石川富康さん(71)が最後の南極大陸最高峰、ビンソンマッシーフ(4897m)の登頂に成功した。7大陸最高峰の登頂を決意したのは02年夏。同年5月、エベレスト(8848m)に当時世界最高齢の65歳で登頂に成功したのかきっかけだった。

日本山岳協会によると、7大陸最高峰登頂に成功したのは世界で200人前後。日本人では92年に女性として世界初となった田部井淳子さん、99年に当時世界最年少の25歳で達成した野口健さんら10人余り。

(1月28日 毎日新聞＝日本山岳会だより[号外])

注意、人に慣れる野生猿 中央アルプス千畳敷にも群れ

長野県の中央アルプス千畳敷(2612m)で夏を過ごす野生の猿が増え、人間への警戒心も薄れていることが、NPO法人「アルプスAyuda(アユダ)」などの調査で分かった。猿が高山植物を荒らすだけでなく、人に襲いかかる心配も出てきた。

調査した市立博物館学芸員の吉田保晴さんによると、猿が千畳敷に現れるようになったのは2002年ごろ。当初は人から10メートル以上離れて警戒していた。しかし、06年、07年には約70匹に増え、人から5m地点でも悠然と過ごすようになった。

(1月29日 東京新聞)

立山登山・スキーを楽しむ皆様へ ドコモ及びソフトバンクの 携帯電話サービスが変更

08年4月1日(火)午前0時より、NTTドコモのFOMAサービスエリアとソフトバンクの第3世代(3G)携帯電話のサービスエリアを、立山室堂地区に拡大し、サービスを開始する。これに伴い、ドコモのmovalは、平成20年3月25日(火)午前0時をもって、また、ソフトバンク第2世代(2G)は、08年3月24日(月)午前0時をもって、それぞれ携帯電話サービスを提供を終了する。

(08年2月)

「冬山を甘く見ていた」 スノボの7人遭難

広島県安芸太田町の「おそらかん国設恐羅漢スキー場」でスノーボードの男性7人が3日午後から消息を絶ったが、5日午前、42時間ぶりに恐羅漢山の島根県側で発見、救助された。男性らは「冬山を甘く見ていた。小屋の床板を燃やし、あめなどと食べて過ごした」などと話した。(2月6日 西日本新聞)

遭難：大山登山の男性帰宅せず 8合目でJAC北九州支部が無事発見

2月9日午後8時50分ごろ、鳥取県大山町の大山登山に出かけた松江市の会社員、米倉得雄さん(56)が帰宅しないと、妻から大山寺駐在所に通報があった。県警大山遭難広域救助隊などが10日朝から捜索を始め、8合目付近で米倉さんを発見。米倉さんは島根県山岳連盟の遭難対策委員を努めた経験もあるベテランで、けがもなく無事だった。

米倉さんと八橋署によると、米倉さんは9日午前9時半から、日帰りで下山する予定で登山を始めた。しかし、吹雪で視界が悪くなったため、午後2時ごろから9合目付近で簡易テントを張り野営した。通報を受けた救助隊員ら約

20人は、10日午前8時過ぎから搜索を開始。同10時ごろ、一般の登山者(日本山岳会北九州支部登山隊10人)が下山中の米倉さんを8合目付近で発見した。米倉さんは7合目付近で救助隊と合流し下山した。

米倉さんは、今回は食料などは持っていたが、携帯電話を車に置き忘れ、連絡がとれなかったと話した。

(2月11日 毎日新聞)

※ この遭難ニュースについては、4ページの「大山雪山テント合宿」の報告記事の中でもふれています。

宿泊客20人CO中毒? ハガ岳

2月11日午前5時15分ごろ、ハガ岳連峰・赤岳(2899m)山頂近くの「赤岳天望荘」の宿泊客から、長野県警茅野署に「何人かが一酸化炭素中毒のような症状で気分が悪い」と通報があった。県警ヘリなどが、頭痛や吐き気を訴えた男性10人と女性5人を病院に搬送した。診察の結果全員の症状は軽く、命に別状はなかった。同荘では灯油ストーブが使われていたといい、会社の社長は「積雪量が多く、吹きだ

まった雪が建物を覆っていたので、建物の密閉性が高くなっていたのかもしれない」と話し、換気が不十分だった可能性を示唆した。(2月11日 時事通信)

野口健さんに植村直巳冒険賞

2007年に優れた冒険をした人に贈られる「第12回植村直巳冒険賞」に12日、中国側からのエベレスト登頂に成功し、山に残されたごみを回収する「清掃登山」にも取り組んだ登山家の野口健さん(34)が選ばれた。

野口さんは、1999年にネパール側からエベレストに登頂昨年5月、中国側からの登頂にも成功し、日本人で8人目とされる両ルートからの世界最高峰制覇を成し遂げた。2000年からはエベレストや富士山のどのごみ回収に取り組んでおり「登山家の実績と環境に目を配った活動」が評価された。(2月13日 西日本新聞)



自然を愛し、ムラづくりを推進している岳友へ

北九州支部 溝部 忠増 (11977)

朝日新聞社と森林文化協会は、いま、「にほんの里100選」候補地を募集しています。ぜひ、あなたの好きな里を選んで、候補地となる里を応募して下さい。

このキャンペーンは、朝日新聞の創刊130周年と森林文化協会の創立30周年の記念事業です。

緑豊かな田んぼや里山、生き物でにぎわう水辺や海辺など日々の営みで保たれてきた、多彩で美しい里の自然と景観、人模様を参考にして「日本の里」100カ

所を選定します。景観、生物多様性、人の営みなどの面から、いろいろな心の故郷を探しています。ぜひ、みなさんの身の回りから、素晴らしい候補地をお仲間の方々と一緒に推薦して下さい。

応募のあった里の中から候補地を絞り込み、現地調査もおこなったうえで、選定委員会が、総合的に判断して選びます。来年1月、朝日新聞紙面などで、その結果を発表します。

未来につなぐ健やかで、美しい里を募集中

なお、この選定委員長は、寅さんシリーズ、釣りバカ日誌などを手がけている、映画監督の山田 洋次さんです。他の選定委員は、環境歴史学、緑地学、植物生態学などを専門とする東大、京都大の大学院教授などです。また、100カ所を選定後には、各地で里歩き、「生き物観察会」、シンポジウム、セミナー、撮影会などのイベントを展開する計画です。

応募には、「にほんの里100選」のサイト(<http://www.sato100.com>)か、FAX 03-5540-7662(森林文化協会)にして下さい。

個人はもちろん、団体の名前でもかまいません。応

募用紙に、お名前、ご連絡先、郵便番号、都道府県、市区町村名、電話番号をご記入のうえ、対象となる里について ①所在地、都道府県、市区町村名 ②場所の名称 ③里の特徴など、特にアピールしたい点についてお書き下さい。

応募締め切りは、3月31日です。応募用紙は、朝日新聞の各本支社、総局、森林文化協会などにあります。キャンペーンの趣旨、応募の仕方などのお問い合わせは、朝日新聞東京本社内、森林文化協会「にほんの里100選」事務局(03-5540-7686)、または私あて(0940-33-6353)にどうぞ。

北海道支部から救援金に対するお礼状

昨年、北海道上ホロカメットク山での雪崩遭難事故で、わが北九州支部の会友でもあった助田陽一さんら4人が亡くなったことから、北九州支部で救援金を募り

(お礼状の内容)

謹啓 2月22日、札幌を暴風雪が襲い、わが家は1階の半分まで埋まりました。いつもながら二つ玉低気圧の威力を見せ付けられました。御地からの梅の便りもあるのに北海道はまだ厳冬期です。

さて、このたびは、まことに高額な救援金を寄せられ、ただただありがたく拝受いたしました。心から御礼を申し上げます。吉村健児大先輩にはかつては自然児学校運営基金をいただくなど、本当にお世話になりました。このたびも吉村様が先頭にたって呼びかけていただいたと聞いており、貴支部の皆様北海道支部に寄せられた心からのご支援に胸が熱くなります。

ご心配をおかけしました上ホロカメットク山雪崩遭難事故につきましては、現在、事故調査委員会を設置して、事故の解明と再発防止の方策を検討し、4月頃に調査報告書をまとめる方針で作業を進めております。

今回の事故の遺族の方々も、少し落ち着いてきておられるので、ご安心下さい。しかし、まだ3カ月をすぎたばかりであり、この激しい風雪を見て、かの山で逝ったことを思い起こしているのではないかと、と心中を察しております。

思えば、南北交流登山で、貴支部の会友であった助田陽一さんと梨枝子夫人が私共と4人で北九州の一夜を楽しませていただき、その思い出を胸に今年の支部懇にまたみんなでそろって行こうと語り合っていたのですが、陽一さんは帰らぬ人となってしまいました。梨枝子夫人も右膝に重傷を負っていまだに入院治療中ですが、心にも一生癒えることのない傷を負ってしまいました。

ました。54人の方々から申し出があり総額12万円の救援金が集まり、早速北海道支部に、お送りしましたところ、長谷川雄助支部長から次のようなお礼状が、大庭支部長宛に届きました。

さしあたり、支部としては、事故処理に全力をあげておりますが、間もなく支部総会を迎える時期になり、日常的な支部事業の運営も立てて行かなければならない時期にきました。有能な事務局長を失い、いまや事務局長兼務の日々を送っている状態です。未だ事故の痛手から立ち直れないままにいる自分に、「あとは誰かやる方はいるのか？」^{あしかせ}と言ひ聞かせつつ、重い足枷を引きずりながら動き回っています。

朝の来ない夜はない、といわれますが、北海道支部も明るく爽やかな朝を迎えるようにがんばっておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

大庭支部長さんにも、今年迎える全国支部懇談会の準備など諸々の業務が押し寄せてきておられるものと拝察いたしますが、どうかご自愛の程よろしくお願い申し上げます。また、関口事務局長さんほか、皆々様に私ども北海道支部会員が、このたびの救援金に心から感謝申し上げていることをお伝え下さる様に重ねてお願い申し上げます。

お礼の遅れましたことをお詫び申し上げ、支部懇で、皆様に再会できることを楽しみに、支部を代表してお礼の言葉といたします。ありがとうございました。

謹白

2008年2月27日

大庭 常生 様

長谷川 雄助

2008年度の山行計画(案)

日程	目的地	備考
2008年		
4月20日(日)	陶ガ岳	岩登り
5月24日(土)～25日(日)	英彦山	山開き
6月21日(土)～22日(日)	祖母山	キャンプ
7月27日(日)	古処山～屏山	縦走
8月	休会	(全国支部懇準備のため)
9月7日(日)	由布岳	お鉢回り

10月12日(日)	支部懇記念山行	
	福智山、平尾台、火の山～風師山	
11月2日(土)～3日(日)	筒ガ岳	宮崎ウェストン祭
11月30日(日)	津波戸山	紅葉
2009年		
1月18日(日)	若杉山～宝満山	縦走
2月8日(日)	安蔵寺山	雪山訓練
3月22日(日)	福智山	清掃登山

ウェストン顕彰記念物、全国に16

No.13541 高 島 拓 生

日本山岳会名誉会員であった英国人宣教師ウォルター・ウェストンの記念碑について、紹介してみよう。今さらウェストン・・・と思う方もいるかもしれないが、懐かしく思って読んでいただきたい。

まずウェストンが、日本山岳会に入会したのが1910年(明治43年)で、会員番号は249番。彼は、それよりも20年前の明治23年11月6日に、当時九州の最高峰と

思われていた祖母山(1757m)に登山している。その証拠が、宮崎県高千穂町(当時の五カ所村)の「八津田鷹太郎」の日記に書き残されていた。このことがきっかけとなり、祖母山のふもと、五カ所高原・三秀台にウェストンをしのぶ記念碑が建立された。その記念碑には、次のような文が刻まれている。

日本山岳会、育ての親、英人牧師ウォルター・ウェストン氏が日本アルプスに初登山する前年の明治二十三年十一月六日、秀峰「祖母山」に登山していることが、五ヶ所の八津田日記にて昭和三十年後半に確認立証された。昭和四十年三月「祖母、傾園定公園」に指定され、機を逸せず高千穂町議会にウェストン碑建設特別委員会を設置し議長佐藤正松氏を委員長として町内外多数の方々の浄財を戴き、昭和四十一年十一月六日英國のウェストン生家より贈られたヨークシャー石、八津田日記の一文、ウェストン氏のレリーフを配した記念碑が、ウェストン氏がつたであらう旧道横にあたるこの三秀台に英國大使館より祝賀メッセージをいただき、除幕式が盛大に行われた。

その後地元北陸山岳会が中心となり、碑へ洋鐘をとの話を持ち上がり、各地山岳会や町内の方々の御理解と御協力を戴き、昭和四十七年五月二日、日本山岳会、日本山岳協会から小島六郎氏、尾関 広氏の出席を仰ぎ懸鐘式を挙行、ここにウェストン碑の完成を見た。

昭和六十年十一月三日、高千穂町と日本山岳会宮崎支部において、第一回ウェストン祭を共催。昭和六十一年には、日本山岳会会長今西寿雄氏、元会長西堀栄三郎氏の出席を得以後回を重ね、奇しくも本町町制七十周年とウェストン氏祖母登山百周年、を迎えるに当たり碑の経緯を記するものである。

平成二年十一月三日
高千穂町長 甲斐 敏 常

次に、このようなウェストン記念碑は、全国にいくつあるあるだろうか。これについて平成14年に日本山岳会宮崎支部がまとめていた一覧表は次の通り。し

かし、その後、日本全国のどこかに新しく記念碑が建立されたところがあるかもしれない。

ウェストン顕彰記念物一覧

番号	形 状	所 在 地	建立などの年月日	備 考
1	レリーフ	長野県安曇村	昭和12年 8月26日	現在のものは昭和40年
2	石 碑	飯田市時又	昭和40年 5月 9日	
3	レリーフ	松本市蟻ヶ崎	昭和40年 (作成年)	松本市アルプス山岳館内
4	レリーフ	東京都千代田区四番町	昭和40年 (作成年)	日本山岳会内
5	石 碑	宮崎県高千穂町	昭和41年11月 6日	五ヶ所高原三秀台
6	石 碑	松本市浅間温泉	昭和48年 5月20日	梅の湯旅館内
7	胸 像	長野県堀金村	昭和61年 8月24日	
8	石 碑	長野県四賀村・青木村境	昭和61年11月 8日	
9	全 身 像	新潟県青梅町	昭和63年 7月19日	
10	胸 像	長野県安曇村	平成 元年 7月 9日	清水屋ホテル内
11	石 碑	山梨県芦安村	平成 元年10月15日	
12	石 碑	青森県新郷村	平成 4年10月10日	戸来彌氏宅内
13	石 碑	飯田市時又	平成 6年 4月 2日	
14	石 碑	長野県戸隠村	平成 9年 8月 3日	
15	標 柱	長野県阿智村	平成 9年10月10日	
16	胸 像	岐阜県中津川市川上	平成13年10月13日	恵那山ウェストン公園内

平成14年11月3日 日本山岳会宮崎支部

山行計画のご案内

4月の山行

陶ヶ岳、クライミング研修 (山口市・四辻、4/20)

日程：'08年4月20日(日)

交通手段：自家用車

集合場所：一宮町、玉姫殿向い側空地

行程：4月20(日) 6:30 玉姫殿空地出発→山口市・四辻/陶ヶ岳

クライミング・ロープワークの研修

費用：現地までの交通費は各自負担(行動食は各自準備)

ハーネス、カラビナ数枚、シュリング数本(研修に必要。各自準備下さい。)

申し込み：細川(TEL083-245-3362)

締め切り：4月14日まで

5月の山行

1. 乗鞍岳登山とウエストン祭(5/30~6/1)

日程：08年5月30日(金)~6月1日(日) 2泊3日

目的地：乗鞍岳~上高地

行程：5月30日 北九州~名古屋~高山~新穂高温泉(泊)

5月31日 新穂高温泉~平湯~豊平・乗鞍岳・豊平~平湯温泉~上高地(泊)

6月1日 ウェストン碑前祭参列後、新島々~松本~名古屋~北九州

費用概算：60,000円(小倉~名古屋往復新幹線利用)

装備：冬山装備(乗鞍岳)

申込期日：4月20日(切符購入のため)

申込み先：事務局(関口)TEL/FAX: 093-382-6436

2. 英彦山山開き(5/24・25)(添田町共催)

日程：平成20年5月24日(土)~25日(日)

行程：5/24(土) 前夜祭

午後5時、英彦山キャンプ場集合

サロンルーム

毎月第4水曜日

毎回盛況!

3月のサロンは、26日(水)

4月のサロンは、23日(水)

とき 午後6時30分から

ところ 小倉北区魚町「コールド」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

会費 3,000円前後(ワリカン制です)



宿泊はキャンプ場予定

5/25(日) 山開き神事(山頂)

当日集合：午前8時、別所駐車場

別所→奉幣殿→中岳上宮(山頂)

山開き神事・昼食)→往路、または

は、豊前坊方面、鬼杉方面下山

→別所駐車場

費用：前夜祭参加者~バンガロー代、食料、飲物代など1人3,000円くらい。

携行品：キャンプ組は、シュラフ、食器、翌日の弁当、雨具など。

当日組は、弁当、雨具など。

申込み：日向(TEL090-3320-7848)

または、高島(TEL/FAX0948-53-1740)

まで

6月の山行

祖母山キャンプ(6/21~22)

オオヤマレンゲ観賞

日程：08年6月21日(土)~22日(日)

行程：6/21(土) 上畑やまびこ塾泊

(シュラフ持参、自炊)

6/22(日) 尾平~宮原~山頂~黒金尾根~尾平

集合：午前10:00、門司港駅

(山口県は9:30一宮駐車場)

申し込み：原 広美(TEL/FAX083-245-5490)

締切：5月31日

編集後記

○前号から、編集校正のベテランである溝部忠増先輩に、忙しい中、校正作業をお願いしています。素人の私たちがいくら間違いがあってもわからないのですが、溝部さんの手にかかる、紙面が真っ黒になるくらい、線や記号が書き込まれ、一字一句見逃さず訂正されています。そして、出来上がれば、簡潔な読みやすい文章になっています。溝部さんは元朝日新聞社勤務と聞いておりますので、その道のプロであったわけです。今後はずかしくない「北九だより」を、つくり続けていくために、溝部さん、どうかよろしく願います。この編集後記だけは、すべての校正が終わったあとに書きましたので、おそらく、気がつかない間違いがあるものと思いますが、ごがんばんのほど。 Q

○山 の 原稿は、事務局(関口事務局長)又は
〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。
TEL/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿は、
アドレス rw4ux6@bma.biglobe.ne.jp です。
デジカメ写真は、縮小せず添付で。

○原稿は月末25日までに送付下さい。